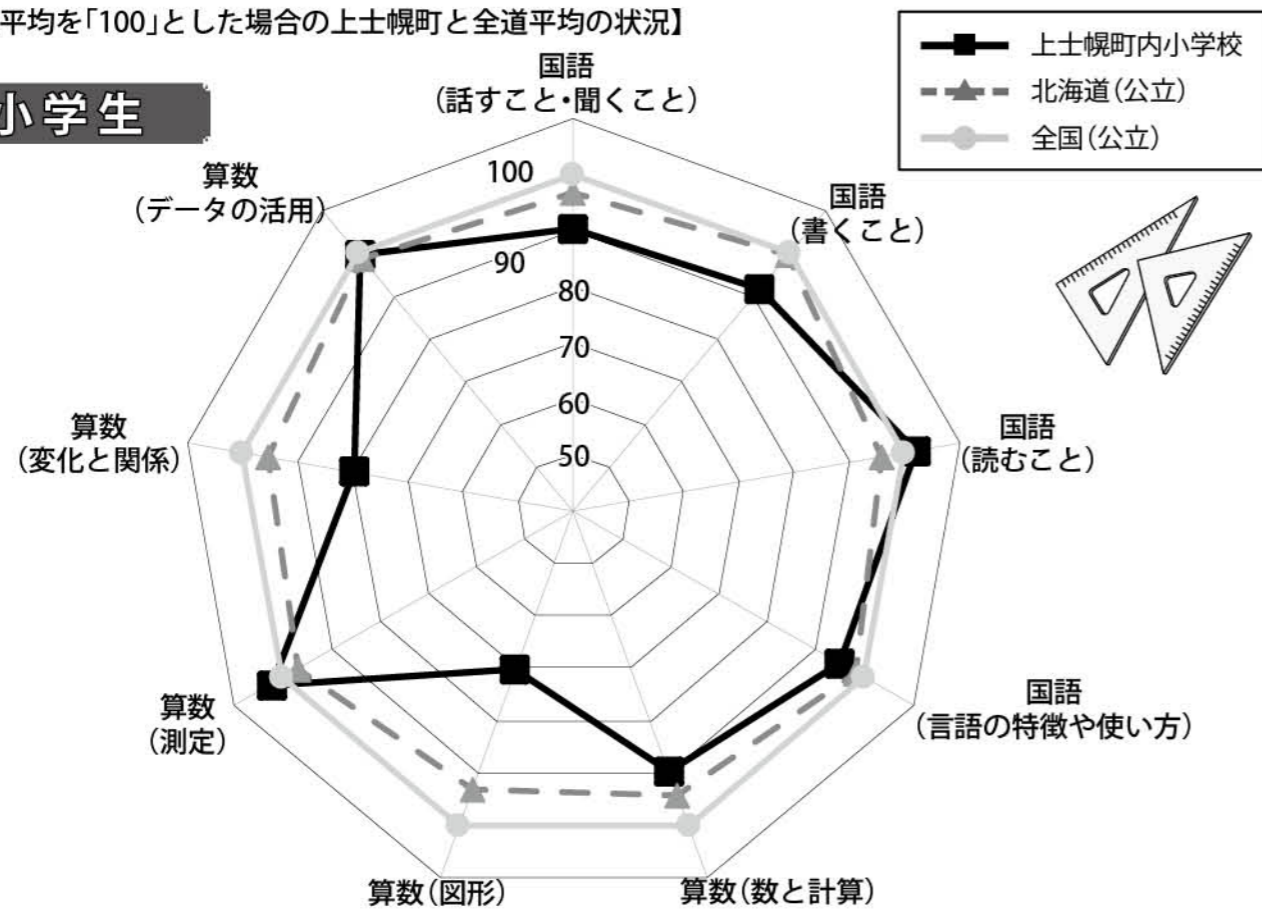


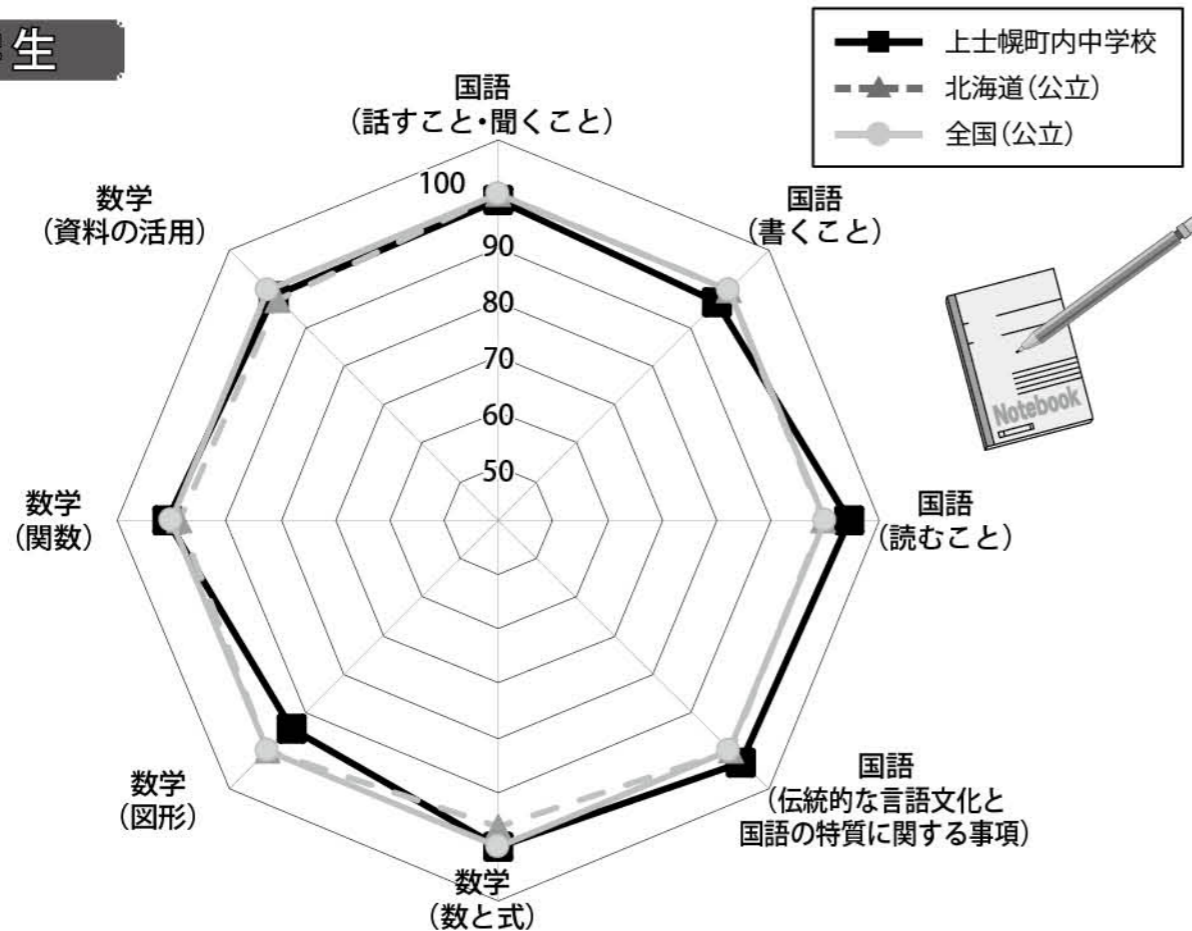
児童・生徒の学力の傾向

【全国平均を「100」とした場合の上士幌町と全道平均の状況】

小学生



中学生



※お問い合わせは、教育委員会教育推進課(☎2-3014)まで

全国学力・学習状況調査結果

～令和3年度の傾向と改善に向けて～



令和3年5月27日、小学校6年生と中学校3年生を対象に全国学力・学習状況調査が行われました。昨年度は、新型コロナウイルス感染症の流行により、全国一斉の学力・学習状況調査は行われませんでした。今年度は国語、算数(数学)が統一して実施されました。※1
 令和2年度から小学校で、今年度から中学校で新学習指導要領が全面実施されています。この学習指導要領が目指す子どもたちに育成すべき資質・能力は、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」ですが、この調査においてはその中の一部分を調べています。また、生活習慣や学習習慣の実態を明らかにするために、質問紙による調査も毎回実施されています。
 ※1 前回の令和元年度から、各教科A問題とB問題に分けず、国語、算数(数学)に統一され実施されています。また、理科と英語は3年に1度実施されます。計画では、令和4年度に国語、算数(数学)と理科、令和5年度に国語、算数(数学)と英語が実施予定となっています。

■本町の児童・生徒の学力傾向

小学生は、国語の正答率が全道・全国平均からわずかに下回り、算数も同様に下回りました。中学生は、国語の正答率が全道平均と同等、全国平均からは、わずかに下回りました。数学も全道平均と同等、全国平均よりわずかに下回りましたが、一昨年度より5ポイント以上差が縮まっています。教科の領域ごとに見ると、小学生の国語「読むこと」は、全道・全国平均を上回った一方、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」は、全道・全国平均を下回る結果でした。小学生の算数では、「測定」が全道・全国平均を、「データの活用」が全道平均を上回り、「数と計算」「図形」「変化と関係」が全道・全国平均を下回りました。中学生の国語は、「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は全道・全国平均を上回り、「話すこと・聞くこと」「書くこと」は全道・全国平均を下回りました。中学生の数学では、「数と式」「関数」が全道・全国平均を、「資料の活用」は全道平均を上回りましたが、「図形」は全道・全国平均を下回りました。

■生活習慣や学習習慣等の傾向

小学生の質問紙からは、「自分でやると決めたことは、やり遂げる」「失敗を恐れないで挑戦する」「人が困っているときは、進んで助ける」の項目で、全道・全国より高い割合になっています。また、授業において自分で考え自分から取り組んだり、家庭学習に取り組む時間が多い児童ほど、国語、算数の平均正答率が高い傾向が見られました。一方、「算数の勉強が好き」「算数の勉強は大切」と回答している割合が全道・全国より少なくなっています。中学生の質問紙からは、9割近くの生徒が、「将来の夢や目標を持っている」と答えており、「人の

役に立つ人間になりたい」と回答している割合とともに高い結果となっています。一方で「平日の家庭学習の時間」については全道・全国より少なくなっています。

■問題解決に向けての取り組み

小・中学校においては、今回の調査結果をしっかりと分析し、確実に課題を解決していけるよう取り組んでいます。児童生徒質問紙の生活面や学習面の課題については、校内だけでなく家庭や地域と共有し、さらにPTAや学校運営協議会、外部機関と連携することで、確実に学力を高めていけるよう努めていきます。

1 授業の改善と家庭学習の充実

上士幌町では、5年以上にわたって秋田県の学校と交流し、「探究型」の授業展開を目指しています。今後、単元構成で「主体的・対話的で深い学び」を適切に位置付け、授業の質を高めていきます。また、授業と連動した家庭学習の取り組み(ノートの活用や家庭学習時間の確保)を実践していきます。

2 カリキュラム・マネジメントの充実

ICTの活用、地域の特性や人材を活かした教育課程の編成・実施・評価を工夫し、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指します。

3 家庭学習の強化

学校の総合力を高め、保護者・地域とともにチームとして、子どもたちに持続的に人生や社会を自ら創出できる資質・能力を向上させることを目指します。